



大阪プロバスクラブ

会報 第361号

2021年7月12日発行

Monthly Bulletin of
The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
例会日：(原則) 毎月第2月曜日 12時より14時まで

○創立 2001(平成13)年7月9日創立記念式7月16日

○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ

○会長：吉田州伸 ○副会長：有竹正巳、西田隆昭

○幹事：川端崇且 ○司会：浅山紀久子

○事務局：(川端幹事宅) 〒562-0044 箕面市半町2-5-23

Tel: 090-2702-7212

○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com

○会報ホームページ：<http://osakapurob.exblog.jp/>

○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>

会長：古賀靖子(北九州)

副会長：川端崇且(大阪)、島村吉三久(五所川原)、

馬場康博(旭川)、田中信昭(東京八王子)

幹事長：松本 忠(北九州)

○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版

<http://probuscent.exblog.jp/>

3月中旬から6月中旬まで3か月間の更新分(順不同)

クラブ	会報	記事一部
東京多摩	ニュース第94号	「住いは美しく歳をとらせたい」増山敏夫副会長、宇宙大航海時代を飛び続ける「はやぶさ2」小池博会友、「シルバースト考」堀内洋二会員、他
鈴鹿西	会報第247号、第248号、第249号	247号：卓話「我流 仏像の見方・考え方」長田芳樹会員他、248号：4月臨時総会、卓話「アイヌ文化第3話」大石幸生会員他、249号：伊勢新聞記事「あしたを拓くアイヌの誇り、取り戻す」他
神戸北	4月例会ご案内	6月9日例会(総会準備、会則修正等)、7月14日令和3年度総会
北九州	月報つながり No.178、No.179	No.178：卓話「私の駆け出し記者時代」松本忠会員、委員会活動報告(歴史文学講座等)他、No.179：4月例会報告、委員会活動報告(企画、親睦、活性化格委員会)他
東京八王子	プロバスだより第304号、第305号、第306号	304号：「生類供養塔と日本人」土井俊玄、「短歌との出会い」持田偉三会員、他、305号：「私の情報委員会在任時を振り返る」竹田洋一郎他、306号：「巡り合った街の名医」馬場征彦、「古典芸能鑑賞会」幹事内山雅之、他
大阪	会報第359号、第360号	359号：卓話「私の履歴書」中井良美会員、プロバスクラブとは、他、360号：卓話「海外旅行で体験した話」西田隆昭会員、ひろば第4号寄稿記事、他
姫路南(二水会)	会報104号、105号	104号：「4万kmを歩いた男、伊能忠孝の人生2度有り」(その7)松下英明記他、105号：総会記念公演「巨大商社鈴木商店と播磨」神戸新聞社執行役員村上小百合氏、他

今回 第362回 通常例会 2021年7月12日(月)
会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00

【2021年5月10日、同6月14日の2回の例会が中止のため、今回が第362回例会】

●大阪プロバスの歌(作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎)

- ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
- ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
- ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快に生き抜こう

●うみ(作詞：林 柳波、作詞：井上武士)

- ① うみはひろいな 大きいな
つきがのぼるし 日がしずむ
- ② うみは大なみ あおいなみ
ゆれてどこまで つづくやら
- ③ うみにおふねを うかばして
いつてみたいな よそのくに

前回 第361回 観桜会 2021年4月5日(月)

会場：帝国ホテル大阪 над万 11:30~13:30

◎361回例会(観桜会)

○司会進行：浅山紀久子会員

○吉田州伸会長挨拶

○山村紗智子親睦委員長挨拶

○乾杯：有竹正巳会員

○食事タイム

(会報担当より：観桜会では大阪府が運営する淀川沿川まちづくりプラットフォーム構成員の淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会事務局長宮田鐵夫会員に以下のプラットフォーム最新ニュースを提供していただきました。)

◎近況報告：宮田鐵夫会員

「淀川沿川まちづくりの最近の話題」

●淀川大堰閘門の整備に着手(以下、国交省近畿地方整備局 令和3年3月30日 Press Release より引用)

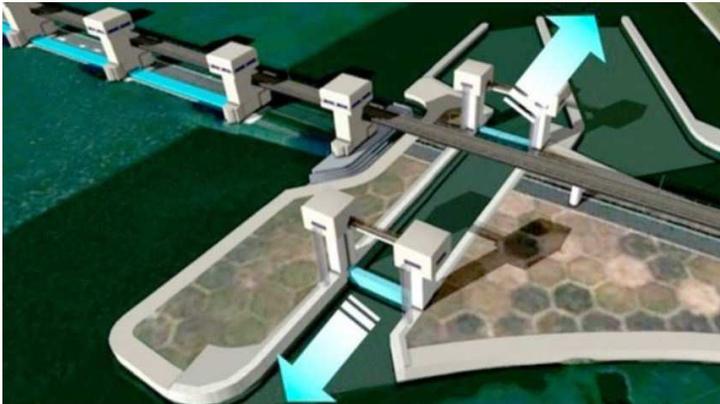
- ・淀川の航路は、淀川大堰によって分断され、行き来ができなくなっています。上下流を結ぶ閘門を設置することによって、淀川河口・大阪湾と淀川上流の間を船が行き来できるようになります。大阪・関西万博開催までの完了を目指し、近畿地方整備局が淀川大堰閘門の整備に令和3年度から新規着手します。
- ・淀川大堰閘門を整備することで、地震などの災害時の復旧活動への活用や、河川工事の資材運搬を舟運(しゅうん)を用いて実施することが可能になります。また、淀川大堰閘門整備による舟運の拡張に伴い、淀川沿川の賑わい創出に寄与することで、淀川全体の広域連携によるまちづくりを国・大阪府・関係市町村等と促進していきます。
- ・淀川舟運のこれから(一部省略)
淀川上下流の舟運分断の解消により防災対策、賑わいづくりを関係機関と連携して推進することで、魅力ある淀川となるよう努めていきます。



2021.04.05

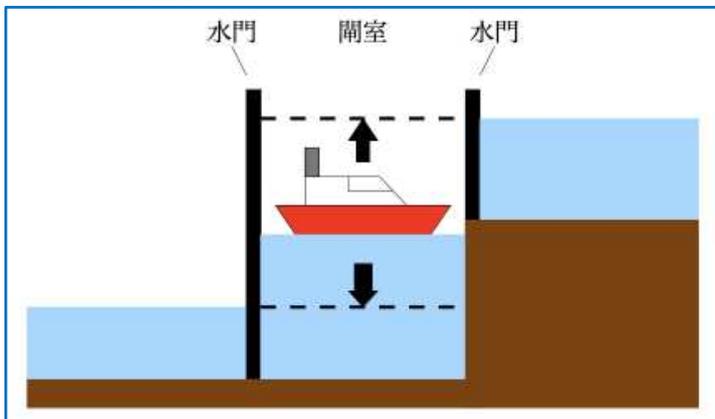
観桜会

●<淀川大堰閘門イメージ図>



(国土交通省近畿地方整備局提供)

<閘門の模式図>



画像引用元：<https://judge.u-aizu.ac.jp/>

●<淀川の分断状況> (青と赤の線が分かれている)



とおおぎき
<淀川大堰現況>

以上2画像引用元：大阪府「淀川大堰閘門の整備について」要望より
<http://www.pref.osaka.lg.jp/>

●復活！三十石船

(会報担当より：以下、宮田会員より提供していただいたパンフレット「復活！三十石船」より引用)

古来、淀川は京と瀬戸内海を結ぶ重要な交通路でした。淀川沿岸には伏見城・淀城・大坂城が築かれ城下町が開かれました。堤の道は江戸時代には東海道の延長として賑わい、伏見・淀・枚方・守口などの宿場町が發展します。淀川は沿岸の農業・漁業にも豊かな恵みをもたらしました。また船から見る美しい風景、歴史豊かな寺や神社は多くの絵画や文学を生み出しました。淀川は町を育て、人々の生活基盤となり、文化を生み出したまさに「母なる川」だったのです。しかし時に川は洪水などの災害をもたらしました。淀川は人が維持管理することで、常に姿を変えてきました。現在、堤防などの治水対策が進み、交通手段も多様になったことで、川と人は遠い存在になりつつあります。淀川の船旅を体験することにより、淀川が育んだ歴史と文化に思いをさせ、人と川の関わりをもう一度見つめ直してみたいかたがでしょう。

<現代版三十石船「弁天」>

画像・資料とも引用元：<https://www.suito-osaka.jp/>



運航：一本松海運株式会社

船名：三十石造船時の安全祈願や三十石船出航を知らせる鐘を鳴らしていた京都伏見にある長建寺。その長建寺の本尊である弁財天から「弁天」と命名。

船舶番号：第 270-48863

仕様：全長 15.59m/全幅 4.50m (全長は当時の三十石船と同寸法)

アルミ製 ※浅い水域を航行できるように喫水を 30cm (旅客乗船なしの状態) におさえている。

推進機：200HP 船外機×2 機

法定旅客定員：80 名 ※旅客人数：60 名

<江戸時代の三十石船> (精選版 日本国語大辞典より)



①米三十石相当の積載量を有する和船の総称

②江戸時代、淀川を上下した過書船(かしょぶね)の三十石積の船。とくに乗合船として伏見・大坂八軒屋間を往復した人乗せ三十石船は、利用度が高く、一日二回上下し、船頭四人、乗客二八人を定法とした。航行は下りが棹、上りが曳船を主としたが、順風の際は帆を利用した。

(画像資料とも引用元：<https://kotobank.jp/word/>)

◎テーブルの話題：「蕪村の句碑」西宮富夫会員

(会報担当より：淀川大堰南側は長柄・毛馬地域。江戸時代(1716年)すぐ近くの毛馬村に生まれた与謝蕪村を顕彰する蕪村公園が新開門至近との話題が出ましたので、蕪村に触れることとしました。)



新しい開門と蕪村公園位置図 (地理院地図より作成)

●「俳人蕪村 正岡子規」

(明治 29 年草稿、同 30 年完成、同 32 年訂正)

引用元 <https://www.aozora.gr.jp/>

・緒言 (会報担当：以下の箇所は重要と判断し色付けした)

芭蕉 ^{あらた}新に俳句界を開きしより ^{ここ}ここに二百年。(中略) ^{また}はにおいてか芭蕉は無比無類の俳人として認められ、復一人のこれに ^{ひつてき}匹敵する者あるを見ざるの有様なりき。

芭蕉は実に敵手なきか。 ^{いわ}曰く、否。

(中略) (芭蕉)の俳句はその創業の功寄り得たる名誉を加えて無上の賞讃を博したれども、余より見ればその賞讃は俳句の価値に対して過分の賞讃たるを認めざるを得ず。

(中略) 百年間空しく瓦礫と共に埋められて光彩を放つを得ざりし者を蕪村とす。蕪村の俳句は芭蕉に匹敵すべく、あるいはこれを凌駕する処ありて、かへって名誉を得ざりしものは主としてその句の平民的ならざりしと、蕪村以後の俳人の尽く無学無識なるとに因れり。(中略) 蕪村の名は一般に知られざりしに非ず、されど一般に知られたるは俳人としての蕪村に非ず、画家としての蕪村なり。

(中略) 余は ^{ひげん}ここに ^{いずこ}において卑見を述べ、蕪村が芭蕉に匹敵する所の果たして何処にあるかを弁ぜんと欲す。

・積極的美（一部のみ引用、以下同様）

五月雨は芭蕉にも

「五月雨をあつめて早し最上川 芭蕉」

の如き勇壮なるものもあり。蕪村の句またこれに劣らず。

「五月雨や大河の前に家二軒 蕪村」

・客観的美（一部のみ）

芭蕉の俳句は古来の和歌に比して客観的美を現すこと
多し。しかもなお蕪村の客観的なるには及ばず。極度の
客観的美は絵画と同じ。蕪村の句は直ちに以て絵画とな
し得べき者少なからず。芭蕉（の）・絵画となし得べき
者を採みなば

「荒海や佐渡に横ふ天の川 芭蕉」

（など）二十句を出でざらん。・蕪村の句の絵画的なる
者は枚挙すべきにあらねど、

「釣鐘にとまりて眠る胡蝶かな 蕪村」

の如し。一事一物を画き添えざるも絵となるべき点にお
いて、蕪村の句は蕪村以前の句よりさらに客観的なり。

・複雑的美（一部のみ）

芭蕉の句は 尽く簡単なり。強いてその複雑なる者を求
めんか

「鶯や柳のうしろ藪の前 芭蕉」

等の数句に過ぎざるべし。蕪村の句の複雑なるはその全
体を通じて然り。数句を挙げれば

「我をいとふ隣家寒夜に鍋を鳴らす 蕪村」

（等多くあり）。

・句法（一部のみ）

句法は言語の接続をいふ。（中略）蕪村は句法の上に種々
工夫を試みあるいは漢詩的に、あるいは古文的に、古人
のいまかつて作らざりし者を数多造り出せり。

「春風や堤長うして家遠し 蕪村」

「菜の花や月は東に日は西に 蕪村」

（中略）蕪村の句は堅くしまりて揺かぬがその特色なり。

故に無形の語少なく有形の語多し。簡勁の語多く冗漫の
語少なし。

「夏川を越す嬉しさよ手に草履」

「小鳥来る音嬉しさよ板庇」

会報担当より：子規のこの論考は長文で会報では僅か
のみ引用した。興味ある方は下記にアクセスしてくだ
さい。「俳人蕪村 正岡子規」で検索）

●蕪村公園

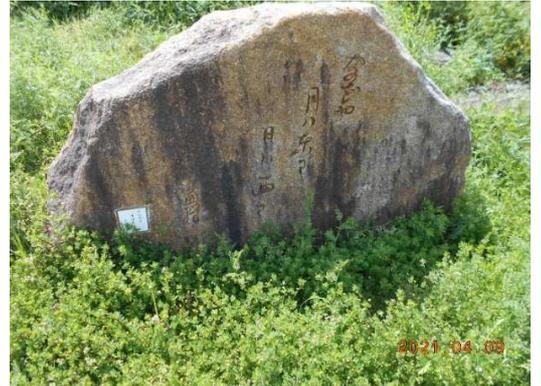


蕪村の句・俳画・経歴等、蕪村を顕彰するフェンス

●蕪村公園の句碑（一部）（蕪村自筆文字が彫られている）



ひねもす
春の海終日のたりのたりにかな



菜の花や月は東に日は西に



芭蕉去てそののちいまだ年くれず

●蕪村の俳画（1例）

画像引用元：Wikipedia



岩くらの狂女恋せよほととぎす
以上

次回 第363回 ピアパーティ 2021年8月9日（月）
会場：ホテルモントレ大阪 16：00～19：00